

第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず「企画シート作成上の注意」をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
リュウコクダイガク	ケイエイガクブ	アキバ フトシ
龍谷大学	経営学部	秋庭 太 ゼミナール

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
アオリンゴマルカジリ	カワイユウキ	4
あおりんごまるかじり	河合祐樹	

研究テーマ（発表タイトル）

高校生の収入に不釣り合いなブランド財布所持の要因

1. 研究概要（目的・狙いなど）

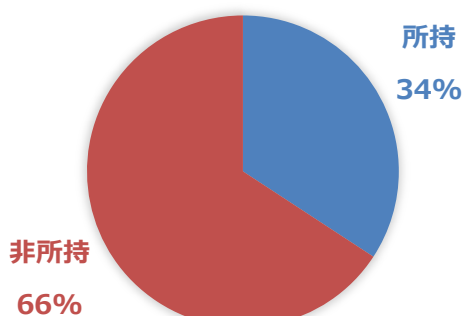
高校生が可処分所得にみあわないブランド財布を持つ事と、高校生を取り巻く周囲の影響にはどのような関係があるのかについて注目し明らかにする。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

図 1 のように、高校生がブランド財布を持つという現実がある。金(2007)、J.N.kaferer and V. Bastien(2009)によれば、ラグジュアリーブランドのターゲット層はかつて上流階級のみであったのに対し、現在では中流階級に対してまで範囲を拡大してきている。また、学校のクラス内の環境として、本田（2015）によれば学校内地位（スクールカースト）というものが存在し、学校内地位の学校生活への影響が示されている。消費者行動については塩田（2002）が社会構造要因と生活意識要因の 2 要素で消費者行動はまとめることができる。と論じている。

先行研究はいくつもあるが、高校生のブランド財布の所持と社会階層に注目し、組み合わせて実証研究を行ったものはない。本研究はこの「高校生のブランド財布所持と学校内階層の関係」に注目し、高校生のブランド財布所持にどの要因がどの程度影響を及ぼしているのかを実証的に検証することを試みる。

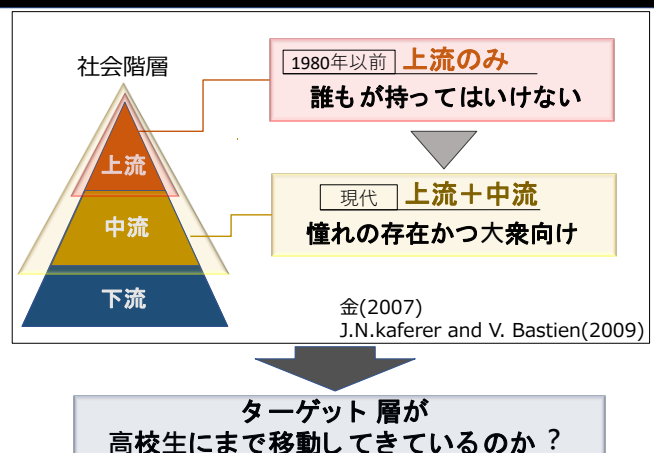
図 1 ブランド財布所持の割合



本研究アンケートから著者作成

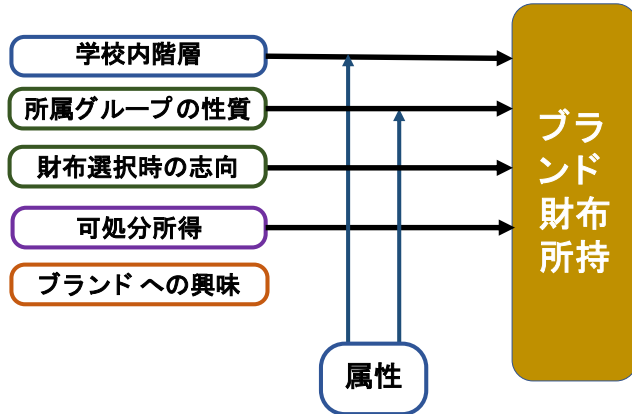
図 2

ラグジュアリーブランドのターゲット層



3. 研究テーマの課題

分析フレームワーク



先行研究では自身の学校内での人気度合で、個人の学校内地位を測定しようとしていた（本田（2015））。また、貴島 中村 笹山(2017)は個人の地位を自己評価で回答させ、所属しているグループの性質を探索的因子分析により4因子を発見し、個人の地位との相関によって3因子を学校内階層を測る尺度とした。これらを参考にし、アンケート回答者の学校内地位を測定し、その他、考える仮説をアンケート項目とし、ブランド財布所持との関係を明らかにすることがこの研究での課題である。フレームワークは左図である。

アンケート項目は以下に記載しておく。

仮説：高校生がブランド財布を持つことには個人の学校内地位、普段最もよく過ごす集団の性質が影響している

アンケート項目

概念	測定用具	従属変数	測定用具
学校内階層	・クラス内地位「人気の程度」 ・クラス内地位「自己評価」 ・グループの特性「中心性、社交性、ツッパリ指標」 ・グループの人数 ・グループ内のブランド財布所持者数	属性	・大学 ・学年 ・年齢 ・恋人の有無 ・ブランド財布所持の有無 ・アルバイトの有無 ・所属集団の人数 ・所属集団のブランド財布所持者数
可処分所得	・1か月の使用可能金額	従属変数	測定用具
ブランドへの興味	・ブランド興味の有無	参考指標	・財布の入手方法 ・所持財布の金額
財布の趣向	・「大人らしさ」の重視		

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

ブランド財布所持との相関関係

相関	回答者のブランド財布所持の有無
所属グループ内所持率	.638**
ブランドへの興味	.524**
「大人らしさ」の重視	.343**
恋人の有無	.231**

二項ロジスティックス回帰分析

従属変数：ブランド財布を所持していたかどうか

独立変数		標準化係数	EXP (B) オッズ比
グループ内所持率		1.576**	4.834
大人らしさの重視		0.884**	2.421
ブランド興味		0.757**	2.133
Cox-Snell R2 乗	0.456	Nagelkerke R2 乗	0.627

モデルの予測的中率

	ブランド財布所持	予測値	正解の割合
		無	有
観測値	無	99 (的中)	11 (外れ)
	有	15 (外れ)	45 (的中)
	全体		84.7 (全体の予測正解率)

所属グループのブランド財布所持率の影響大

アンケート回答者のブランド財布所持の有無と、仮説構築に用いた項目の相関関係ではフレームワークに含まれる要素が3項目ブランド財布所持と相関があることがわかり、従属変数をブランド財布所持の有無に設定し、独立有意確率を.001以下の区切りで設定し、二項ロジスティックス回帰分析を行った結果が右図である。仮説の通り、所属していたグループの影響は大きく、個人の興味の尺度を上回っていることがわかる。大人らしさの重視という変数も有意かつ、ブランド興味の尺度を上回っている。グループ内所持率、大人らしさの重視、ブランド興味の3変数でブランド財布所持の大きな割合を説明できることがわかった。

だが、グループの性質、学校内地位に関しては影響があまり見られなかった。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

大量サンプル調査による定量研究

アンケート方法は媒体としてグーグルフォームを使用し 2019 年 10 月 31 日～11 月 3 日の期間で行った。対象は高校生に学校内階層を質問することは倫理的な問題があるため、大学生、専門学生、社会人として高校時代を回想して答えてもらう回想法を用いた。有効回答数は問題のあった 2 件を除いて 301 件。

分析には SPSS statistics を用いて、相関分析、二項ロジスティック回帰分析を行った。

6. 結果や今後の取り組み

今回の研究を通じて高校生がブランド財布を持つことは所属グループのブランド財布所持率、大人らしさの重視、ブランド興味の 3 変数でブランド財布所持の大部分を説明できることがわかった。また、所属グループの性質や個人の学校内地位に関しては分析段階で有意になるものは無かった。ここから分かることは、個人の所属している集団の性質や、階層は財布所持には影響はなく、個人の内的要因であるブランド興味、大人らしさの重視に比べ、外的要因である所属グループのブランド財布所持率が大きく影響していること、ブランド提供側が戦略として操作できる要因が最も影響しているということになる。

ここから高校生へブランド品の流通に対して考えられる提案は

提案 1：ブランドイメージは大人らしさを打ち出すこと

提案 2：モニター提供等を通じて、一般の高校生に一定程度普及させることで、所属グループのブランド品所持率を向上させる

7. 参考文献

書籍

塩田 静雄著「消費者行動の理論と分析」(2002)

本田 由紀著「学校の空気」(2011)

J.N Kapferer and V. Bastien “The Luxury Strategy –Break the Rules of Marketing to Build Luxury Brands” Kogan,Page,London,2009

（長沢伸也訳『ラグジュアリー戦略』東洋経済新報社 2011 年）

論文

「高級ファッションブランドのグローバルビジネスモデル

-LVMH 社の事例を中心に-」 金 順心（2007）

「スクールカースト特性尺度の作成と学級内地位との関連の検討」

貴島 中村 笹山(2017)

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

●発表時に使用する成果物（例. 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート）

【企画シート作成上の注意】 ※「第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「日経ビジネス電子版」にリンクされた特設サイトに掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

↑ ここまでを 4 ページ以内に収めて、提出してください ↑